

図書館の本が教えてくれたこと

木更津市立太田中学校1年

佐藤 こはる

私は三年前に大分県大分市から千葉県木更津市に引っ越してきた。以前の家の近くには大きな図書館がふたつあり、学校の図書室もたくさんの本があった。読書が大好きで図書館へ行くことが私の楽しみだった。木更津市の図書館も楽しみにしていたが、行ってみると市立図書館は小さく、学校の図書室の本も少なくて正直がっかりした。そんな私に母が「人口も違うしね。税収が少ないか、税金の使われ方が違うのだろうね。」と言った。今回作文を書くにあたり母の言葉を思い出し、税収や税金の使われ方を調べることにした。

税金と聞いて、私は消費税しか思い浮かばなかったが 日本には所得税や住民税、法人税など四十六種類もの税金があり、それが国や地方自治体の税収となる。大分市と木更津市の税収を調べてみると、大分市は人口が多く、観光業やサービス業などが盛んなため個人市民税や消費関連の税収が多い傾向があった。一方、木更津市は商業施設や工業団地の発展より、法人市民税など企業からの税収が要となっていた。税金の種類の多さや市によって税収の内訳が違うことを理解した。

次に、税金の使われ方について調べた。税金は市民のためにさまざまな形で使われていた。両市共に全体の四割以上を民生費(子育て支援や高齢者福祉、生活保護などに係るお金)が占めていた。大分市は観光インフラや公共施設、伝統文化の維持に力を入れている他、高齢化社会に対応した福祉政策にも税金が多く投じられていた。木更津市は交通網の整備や子育て支援、公園の整備など、都市の発展と住みやすさを両立できる施策(環境費消防費)に力を入れていた。今回調べるきっかけとなった図書館や学校に係る費用は教育費に分類され両市共に全体の約一割の予算だった。細かく見ると、学校図書購入年間予算は、大分市は中学校一校あたり約九十八万円に対し、木更津市は約三十八万円であった。大きな差があり驚いたが、さらに調べていくと、子供の医療費や給食費などの補助は木更津市のほうが充実していることが分かった。

今回調べてみて、人口や産業によって税収の内訳や使われ方は都市ごとに違いがあることが分かった。それぞれ抱える課題があり、最適な税金の使い道が考えられていることを知った。私が想像していたよりもずっと毎日の生活が税金によって支えられていることを実感した。私も数年後には納税者になる。それまでに不満を嘆くだけでなく、自分の暮らす街のことや税について学びを深めていきたい。そして心を込めてしっかり納税する大人になりたい。私はこれまで図書館でたくさんの本と出会い楽しい時間を過ごしたり、勇気をもらったり、たくさんの新しい知識を得たりした。この出会いも税金のおかげ。そう思うと感謝の気持ちがあふれた。この気持ちを忘れず日々暮らしてゆきたい。